

●書評

B O O K R E V I E W

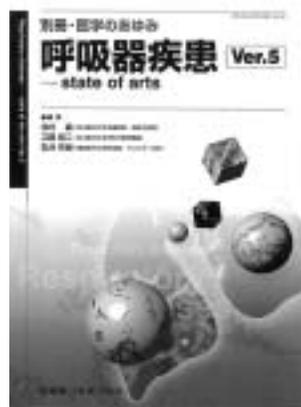
BR

『別冊・医学のあゆみ 呼吸器疾患
—state of arts Ver. 5』

(北村 諭・工藤翔二・石井芳樹/編)

●B5判, 566頁 ●定価 11,970円

●医歯薬出版



今回「医学のあゆみ」の別冊として『呼吸器疾患 state of arts Ver. 5』が刊行された。北村 諭, 工藤翔二, 石井芳樹の3氏の編集による, 500頁を超える大冊である。北村教授の序文によると, この『呼吸器疾患 state of arts』が最初に刊行されたのが1991年とのことであるから, それからの16年間に5冊, すなわち4年に1回の割合でこの“state of arts”が刊行されてきたことになる。医学の急速な進歩を考えると, 4年ごとに改訂を行うのは当然であると思うが, 一方でこのような極めて多数の執筆者による大部の本を4年ごとに刊行することは生易しいことではない。編集に当たられた3名の方々, 多数の執筆者の方々はいうまでもなく, 出版社の担当の方々のご尽力も大変なものだったと思う。

本書ではまず, 第1章病態生理, 第2章診断法, 第3章治療法, の総論的な課題に関する多項目にわたる最近の進歩の紹介がなされている。各章ごとの項目は誠に多彩で, 数多くの新しい知見が盛り込まれている。これらの総論に引き続いて, 第4章主要肺疾患の病態・診断・治療, に関する記述がなされている。特に第4章の各疾患に関する記載では106に及ぶ肺疾患の解説が行われており, 肺疾患の数がこのように多いことに改めて驚いている。執筆者の方々の御名前から, 上述の各章ごとの内容に最近の知見が網羅されていること

が十分に推定される。この本の一つの特徴として, 各項目ごとに“Key Point”として重要事項が要領よくまとめられていることがあげられる。読者はこのKey Pointに目を通すことによって各項目の中の目玉となる事項を知ることが出来るというユニークな試みであり, この項目の創設を考えられた編者の方に敬意を表したい。また項目の解析の中に必要に応じて記載されている“サイドメモ”も読者にとって内容の理解の一助となるものであり, この工夫もこのシリーズの特徴である。

最近の医学の進歩は誠に目覚しく, 呼吸器疾患も例外ではない。本書の書評を書くにあたり, 私自身が興味をもっているいくつかの項目, たとえば肺癌の分子標的療法, 肺の再生, siRNAを用いた治療, 遺伝子治療等の項目の内容に目を通して見たが, そのいずれにも最新の情報が, わが国では未だ認可されていない薬剤に関する情報も含めて的確に紹介されており, 最新の知見の網羅という私の期待を裏付ける内容となっていた。また禁煙指導の問題等も取り上げられている。以上のような本書の内容から当然考えられることであるが, 本書はその題名の通り, 正しく“呼吸病学の最新のハンドブック”であり, その名前にふさわしい十分な内容の本である。

(自治医科大学学長, 高久史麿/たかくふみまる)